

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年2月6日(月)

卒業前雑感 「これから」の読書

卒業後の読書をこのように進めていくか。読書量も大切ですが、それに併せて「書物のジャンル」の幅が重要になってきます。最近の子供達は好きなジャンルばかりを集中して読む傾向が強くなり、読書の幅が狭くなりがちです。

現在の入試問題や面接、論文の傾向として、幅広く知識や自分自身の考えを問われることが多いのは周知の通りです。ちなみに私はこのような読書をしてきたか。それは、興味を持って取り組んだ活動と合わせて本を選ばないことです。釣りに興味があれば釣りの本、大河ドラマに興味をもちたら歴史の本、力×力に興味をもちたら力×力雑語……。今考えてみると、その時々の自分の自身の体験を、より充実させるために本を読んでいたのだと思います。

私の中学時代#1の部活

中学校では小学校と違って、かなりの時間と労力を費やすのが部活動です。しかも、そこにはある友達、長く付き合っていく仲間が多いという気がします。

気の合う仲間が多いと、最後まで続けることができます。3年間続けるというには、結構大変なのです。私の場合入部当初は先輩方から、かなり理不尽な指導もあったように思います。それが原因で部活動をやめる仲間もいました。私は学校からの帰り道、同じ回地に任んでいた友達と先輩の愚痴を言いながらストロスと弁散しながら帰宅していただくを思い出します。また、暑を見ながら帰ったり、将来のことをぼんやりと考えながら帰ったり、部活後の帰り道は貴重な時間でした。だから部活をしないというわけではありませんが、部活が学びものではなくて思っています。私の個人的な意見としては、部活はテニスやバドミントンやサッカー、ダンスや剣道を学ぶのもいいと思いますが、ユーザーズキルを学ぶ絶好の場所だと思えます。

卒業前雑感 ~卒業式、友達の口癖が劇的に変わった日

卒業式現場美味を覚えています。残り少ない小学校生活を、しっかりと味わいながら過ごしてきたいものです。私も小学校の卒業式ははっきりの覚えているのですが、楽しかったという思い出があるからとまた思っています。

私は熊本市立城北小学校に入学しましたが、4年生からは麻生田小学校という新設校に通うことになりました。城北小学校がマンモス化したため、私は麻生田小学校に通うことになった訳です。麻生田小学校ができた場所でもとても野原が、私もよく遊んでいたところでした。又の古い草木が多く、また、大きな石も多かったように思っています。その土地を利用して、校舎、運動場ができた訳ですね。私は5年生の時に新校舎に入りまして、その廊下の広い、校舎の臭い、今でも何となく覚えていて、しかし、運動場が大変です。私達の体育の時間は持久走か運動場作りでした。運動場は運動ができないので、毎日毎日草取りと掃除といったことを思っています。また、当時がけがなやケガが頻りに発生して、けんや遊びの中でできた傷が、今、子供達に話すとこのネタになっています。何気ない日常が、とても思い出深い、現在でも私の心の中心にしっかりと残っています。しかし、あの当たり前の記憶を思い出して、卒業式を境に劇的に変わります。卒業が近づいてくると、何となく自分の心が分かります。一日一日をいかめしく過ごすつもりです。

シリーズ「自分を語る」#00

玉支町小学校で仕事を始めて頂いた9年間は私にとって掛け替えのない時間となりました。振り返ると、私は小学校の初任者研修が本格的にスタートした時代(黒石原支援学校)当時は講義学校に採用されていましたので、うまく息を合わせて、小学校で必要なスキルを身に付ける研修を受けていました。それを必死に頑張って乗り越えて、又スキルを学んだ9年間でした。玉支町小の初任者研修になった講義制は、少しは楽になったと思います。世話になった講義制は、研修は関係ない、なんて真剣に思っていましたから、教師としてのスキルが上がる訳がありません。そのような意味で玉支町小学校の9年間は、教師としての基礎は身に付かなかったかもしれませんが。

さて、教師の基礎を身に付けた(かも)しれない、私、澤田は、玉支町小学校において文部科学省の体育スポーツ研究推進、あるいは学力充実研究推進のため、多くの研究授業をさせて頂いたり、玉支町教育研究所では生徒指導部を中心とした指導法の研究をさせて頂いたこと、充実した時間を過ごさせて頂きました。

平成10年度末、そのころ異動を志願した澤田です。少々、異動に対する不安もあり、落ち着いた日々を過ごしていました。何せ私は、16年の間に小学校の経験が3校しかなく、年齢は30代半ば。今後の自分に何が求められているのか全く分からなくなりました。自分で何が求められているのか、自分の価値観とか、それが解らないというのは、前に進めたい、音に引っかかっている不安があります。次の学校でも高学年とは限らないので、ほんのりとした不安が常に付きまとい、状況が続きませんでした。

このころ、異動発表の日が来ましたが、校長先生「おは、校長先生に」お話しを聞きました。「澤田先生、誰かわたしの異動です。良かったですね。異動先は玉支町立伊倉小学校です。」私たちが教職員は、発表された後、お話を聞きました。私には、来「住むのは、的な性格、色々な場所に慣れました。今も長洲小学校で楽しんで、遣り甲斐のある仕事をさせて頂いています。(出来のところがいい)でも、いいかな、ななて思っています。新任地、伊倉小学校は、そのよきな仕事があるのだから、楽しんであります。程々として、伊倉小学校へ挨拶の邪魔魔致しました。その時から、少々憂鬱な時間を過ごして、今に至ります。何故か、(へい)

※ 「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の可・不可)